

2024 年 2 月 28 日

2023 年度聖路加国際大学大学院  
看護学研究科 課題研究

救命救急領域における看護師のエンド・オブ・ライフケア  
——スコーピングレビュー——  
End of Life Care Practices of Nurses  
in the Emergency Department  
: A Scoping Review

22MN030

横地 哲史

## 要旨

【目的】本研究の目的は、ED(Emergency Department[救命救急領域])における EOLC(End of Life Care [エンド・オブ・ライフケア])の実践内容について、先行研究より知見を整理し、EDで勤務する看護師への学習支援にむけた活用について示唆を得ることである。

【研究方法】研究領域の基盤となる主要な概念やエビデンスを概説することを目的とする手法であるスコーピングレビューを実施した。文献データベースとして、PubMed, CINAL Ultimate, 医学中央雑誌 WEB 版を使用し、キーワードは、「終末期患者」、「エンド・オブ・ライフケア」、「救急医療サービス」および「看護師の役割」とし原著論文に限定した。2015年から2023年までの8年間に発表された研究を対象とした。検索した文献から、主題がED以外における看護実践や小児科患者に限定されているもの、安楽死や尊厳死に関する看護実践であるもの、総説などの一次研究以外のものを除外した。各分析対象文献からEDにおけるEOLCに関する知見を抽出して要約し、類似した内容で分類した。

【結果】分析対象文献は31件であり、各文献での研究対象者はすべて看護師を含んだ。その中で、医師も含めて対象にしている文献が6件、患者の家族も含めて対象にしている文献が1件であった。EDにおけるEOLCは、『患者に対する看護実践』として、【1. EDという現場で患者の死を受け入れる】、【2. 患者から十分に表現されない心身の苦痛を緩和する】、【3. 関係性の構築が困難な中で患者を尊重し、尊厳を守り最善を尽くす】、【4. 患者が最期の時を安心して過ごせる場をつくる】に、『家族に対する看護実践』として、【5. 他の患者の緊急対応と同時進行的に家族と信頼関係を構築する】、【6. 突然亡くなる患者の現状に関する理解を促し、家族の意思決定を支える】、【7. 時間とスペースと静寂がない中で、最大限患者と家族が共に居られる場をつくる】に、『EOLCの実現に向けた協働実践』として、【8. 状況における緊急対応とEOLCの優先度をチームで合致させる】、【9. 多くの専門性を持つチームメンバーで構成されている】、【10. 切迫した時間の中で、限られた情報を集結させる】に、『看護師のEOLCに対する情意的準備』として、【11. EOLCの実践に伴う看護師の精神的負担を認識する】、【12. 突然の死に直面する看護師自身の感情を守る】、【13. 緩和ケア領域の知識や技術を取り込みながらEDでEOLCを実践する自信につなげる】に整理した。

【結論】本研究の知見は、EDにおける看護師のEOLCの実践について概念化することに寄与し、看護師が経験した内容を振り返る際に学習支援として活用できる。また、病院内におけるクリティカルケアに特化したEOLCに関する勉強会や研修を企画する際に、学習内容の整理や到達目標の設定に向けた枠組みとして活用することができる。